授業づくり研修講座　「論理的な文章を書く力を高める指導」実践報告

座間市立相模野小学校　　氏名　　三上　悦子

単元名　　　第１学年　　「わたしのよんだ本」

単元の目標

○自分がこれまでに読んだ本の中から友達に紹介する本を決め、読書カードに書き留める。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(書く能力)

実践のポイント（工夫）

・本を紹介しやすいように、読書カードに作者や登場人物のほかにおすすめポイントを書く欄を設けた。(読書カードの工夫)

実践内容

|  |
| --- |
| 「わたしのよんだ本」は，教科書では書名と作者名だけを読書カードに書いた後、それを掲示し、その中から読みたい本を選ぶことが学習内容になっている。今年度、読書カードを書いた後に、本を紹介する(話す・聞く)活動を取り入れて広がりを持たせた学習にしたいと考えた。そのために1. 紹介したい本を選ぶきっかけとしてブックートークをして、読書に対する興味を持たせた。これまでに読んだり読んでもらったりした本の中で、友達に紹介したい本はないか投げかけた。
2. 本の題名と作者のほかに、登場人物やおすすめポイントを記入できるワークシートを作成して、話の内容がよく分かる言葉や文を書き抜いて紹介したい内容をしっかり書く学習に取り組んだ。

前単元の「みのまわりのいきもの」では、みのまわりにある生き物をよく見て、簡単に説明する文章を書く学習をしていた。つながりのある文や文章を書くことができるようになっていたので、今回は自分がどうしてその本が好きなのか、ぜひ読んでもらいたいところはどこなのかなど、書こうとする題材に必要な事柄を集め、まとめることができるようにした。発表の仕方を多様にして、その説明の文も発表原稿の中に取り込もうとしたが、残念ながら同じ発表の仕方しか考えることができなかった。 |

振り返り（成果や課題）

【成果】

・読書カードに丁寧に書き込むことができた。

・紹介された本を読んでみたいという興味が高まった。

【課題】

・今まで生活文を書く経験を積んできたが、自分の選んだ本の良いところや面白いところを文章に表わす学習は、表したいという気持ちが十分でないと適切な文章や言葉が思いつかないように感じた。母親に読んでもらったり、何度も読み返したりした思い出がある本を思い起こさせる時間をもっと持った方が良かった。

・普段からたくさんの文章を書く経験を積んでいくことが大事になっていく。国語の時間だけでなく、学校生活全部で書くことに慣れていく必要を感じた。